

シン・顎咬合学

最先端歯科治療と踏まえるべき歯科的伝統の融合を再考する



大会長 黒岩 昭弘
特定非営利活動法人日本顎咬合学会 理事長

40周年特別企画

6支部おすすめ講演

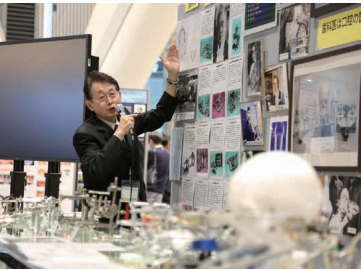
初の合同開催を記念し、「北海道支部」「東北支部」「関東・甲信越支部」「中部支部」「近畿・中国・四国支部」「九州・沖縄支部」各支部主催のオリジナル講演を企画しております。

叡智を学ぶシリーズ「先駆者達からのメッセージ」

1982年創立してから我々ニチガクは40周年を迎えます。ニチガク先駆者としてこれまで開拓・先導してくださった先生方から、日本の未来の歯科界を担う次世代の先生方へ、応援メッセージ。

咬合器アーカイヴ

咬合に関する分野の研究を推進し、その進歩と発展を図るため1979(昭和54)年「国際ナソロジー学会アジア部会」を設立。そして1982(昭和57)年、同部会から発展的に分離独立し「日本顎咬合学会」が始まりました。咬合の学説史は咬合器の歴史をもって跡づけることができます。それら貴重な咬合器をご紹介し、咬合についてより広い観点を得られる機会にしたいと考えております。



【協力】世航会デンタルオフィス 理事長 中島 航輝
有限会社シンクライト 本平 孝志 他予定

DT×Dr.マッチング

ご自身の技工をもっと活かせるチャンスを探している歯科技工士はいませんか？ 巧みな歯科技工士をお探しの先生はいませんか？ そんな歯科技工士・歯科医師のためのマッチング企画です。

歯科技工士プレゼン参加者募集

募集要項	<ul style="list-style-type: none">抄録集掲載用PRテキスト・経歴等：提出期日 2022年6月30日※プレゼン動画（10分）：提出期日 2022年7月29日※ （内容）ラボの技術、特化した製作物、製作過程、施設紹介など その他WEBサイトやE-mailなど公開可能な連絡先情報 ※プレゼン動画は著作権等の確認し、修正指示をする場合もあります。
参加条件	<ul style="list-style-type: none">歯科技工士国家資格を有する者に限る。なお、当学会会員でない技工士も参加可能。ただし、学術大会事前参加登録は必須です。応募時、多少の審査があります。詳しくは下記までお問合せください。
ご応募先 お問合せ先	日本顎咬合学会 歯科技工士部会 松本 歯科大学 伊比 篤 E-mail：ihiatsushi45@yahoo.ne.jp 「ご氏名」「ラボ名」「ご住所」「E-mailまたはTEL」を上記E-mailあてにご連絡をください。 TEL：0263-51-2303
応募受付期間	2022年5月31日※

参加登録のご案内

参加登録費

参加カテゴリー	参加費
会員	歯科医師 20,000 円
	歯科技工士 8,000 円
	歯科衛生士 8,000 円
	歯科助手 8,000 円
非会員※1	歯科医師 25,300 円(税込)
	歯科技工士 11,000 円(税込)
	歯科衛生士 11,000 円(税込)
	歯科助手 11,000 円(税込)
準会員※2	臨床研修医・学生 無料
非会員	臨床研修医・学生 無料
賛助会員※3	企業 5,000 円

《注意事項》

事前参加登録のキャンセルは、お受けできません。また、ご入金いただきました参加登録費のご返金もできません。あらかじめご了承ください。

※1 非会員の参加費は消費税が加算されます。あらかじめご了承ください。
なお、会員の参加費は消費税の課税仕入れには該当しません。（不課税）

※2 準会員とは…会員の臨床研修医及び大学生・大学院生（社会人大学生を除く）です。

※3 賛助会員企業の社員の皆様も学術大会聴講者としてご参加いただけます。
お申し込みは、こちらのフォームから参加登録お手続きをお願いいたします。

《ご入会について》

日本顎咬合学会ホームページよりお手続きください。https://www.ago.ac

入会金、年会費は一般会員・準会員では異なります。

一般会員 入会金：4,000 円 年会費：15,000 円

準会員 入会金：1,000 円 年会費：2,000 円

詳しくは HP をご覧ください。

参加登録期間とお支払方法

ホームページよりご登録ください。https://www.ago.ac/gakujutu_entry/

※メール、電話、FAX でのお申込みはお受けしていません。

クレジット決済 参加登録期間 **2022年4月15日**金～**2022年11月21日**月

コンビニ支払 参加登録期間 **2022年4月15日**金～**2022年10月31日**月

《コンビニ決済について》
○コンビニ決済を選択された場合は、1 週間～ 10 日以内に『SMBC ファイナンスグループ』より払込用紙が送付されます。
○コンビニ決済有効期限があります。有効期限以降は、無効となりますので、ご注意ください。

《非会員の臨床研修医・学生の皆様へ》
ご登録後にメールにて証明書をお送りください。gakujutsu@ago.ac
臨床研修医：所属先から発行される在籍証明書のコピー又は、臨床研修医証明書
学生・大学院生：学生証のコピー

WEB オンデマンド配信・ID & パスワード発行

配信開始の 1 週間前（10 月下旬）にご登録いただいたメールアドレスに配信に関するご案内（ID、パスワード、配信サイト URL）をお送りいたします。

抄録集の発送について

会員・準会員・賛助会員	2022 年度の年会費をお支払い済みの方へ 10 月上旬に発送いたします。
非会員の参加登録の方	ご登録いただいた方へは 10 月上旬に発送いたします。
臨床研修医・学生	ご登録いただいた方へは 10 月上旬に発送いたします。今回の記念大会に限り無料でお渡しいたします。

取得単位について

今大会に限り、右記の通りとします。

30 単位の付与（＝学会年次大会 20 単位＋支部大会 10 単位）

※配信期間中にログイン履歴がある場合にのみ、単位付与となります。

日歯生涯研修登録

本大会の参加登録画面内に「日歯生涯研修登録フォーム」がございます。

お問い合わせ先 **日本顎咬合学会** 平日 10：00 ～ 17：00

●学術大会に関するお問い合わせ

TEL 03-3261-0474 FAX 03-6675-9539

E-mail gakujutsu@ago.ac

●入会・単位その他に関するお問い合わせ

TEL 03-6683-2069 FAX 03-6691-0261

E-mail nichigaku@ago.ac

第40回 日本顎咬合学会 学術大会・6支部学術大会 〔合同開催〕

2022.
11.1 (火)～**24** (木)

WEBオンデマンド開催 **24日間**

シン・顎咬合学

最先端歯科治療と踏まえるべき
歯科的伝統の融合を再考する

大会長：黒岩 昭弘



かめるを たしかめる
特定非営利活動法人
日本顎咬合学会
THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

THE ACADEMY OF
CLINICAL DENTISTRY

40th
anniversary

特別講演

〈演題未定〉 Prof.Tomas Linkevicius

咬合学
押さえておくべき咬合学のポイントと今後の展望

原典から見た補綴学
先人達の希望と諦観 永田 和弘

顎口腔系の長期的保全に不可欠な診断と治療
—人生 100 年の経年変化を的確に評価するには— 小出 馨
咬合と顎運動を展望する 坂東 一永
ディスカッション

座長：黒岩 昭弘

三位一体
歯周病と咬合のコントロール

MI を考慮した咬合再構成 安光 崇洋
咬合再構成におけるラボコミュニケーション 川内 大輔

歯周病と咬合とのかわり
長期経過症例から考察する 今井 俊広

日顎道場
咬合再構成

咬合再構成における要件 櫻井 健次
咬合再構成を追求する
—審美・機能・長期安定性を得るための治療戦略— 樋口 琢香

咬合再構成におけるレファレンスポイント(基準点)の見極め 新藤 有道
ディスカッション

座長：上田 秀朗

歯科臨床最前線
マイクロスコープ（修復）

マイクロスコープを活かす接着修復 天川 由美子
マイクロエンドを日常臨床に！ 岡口 守雄

Microsurgical Approaches for Implant
& Periodontal Surgery
ペリオインプラント治療の最前線 佐藤 琢也

DT プログラム
高齢者社会に対応する歯科技工士

生体機能的補綴装置製作システムの経験から
顧みる総義歯学 伊佐次 厚司

超高齢化社会へのキャストパーシャルの可能性
患者想いのキャストパーシャルを目指して 中野 進也
機能させる RPD・IOD デザインの着目点 奥森 健史

ディスカッション

座長：齊木 好太郎

Dr. 歯科医師 DT 歯科技工士 DH 歯科衛生士 DA 歯科助手

歯科臨床最前線
審美修復

MI を考慮した審美修復治療
Application of digital dentistry in esthetic restoration
吉木 雄一朗

審美領域における
デジタルデンティストリーの最前線 谷尾 和正
Microscope と Degital でつくる審美修復
～コンボジットレジン修復から補綴修復まで～ 樋口 惣

支部選抜発表
若手歯科医師の登竜門

東北支部 齋藤 太紀
関東甲信越支部 町田 真吾
近畿・中国・四国支部 北達 圭佑
中部支部 古橋 拓哉
九州・沖縄支部 陶山 新吾
ディスカッション

座長：加々美 恵一
審査員：難波 鎌久／松本 勝利

小児歯科学
将来を見据えた小児歯科治療を考える

赤ちゃんから学ぶ口と姿勢の発達
口腔機能 HMC と頤位の安定 西川 岳儀
歯科治療が苦手な子ども達へのアプローチ 森川 和政

口腔機能・形態・成長から考える
口腔成育のプロセス 吉田 章太

顎関節の解剖・画像診断
臨床医が知っておくべき顎関節の解剖と画像診断の動所

顎関節の画像診断 勝又 明敏
顎関節の臨床機能解剖学
—変形性顎関節症モデルマウスの解析からの考察を加えて— 山本 将仁

公開フォーラム
TCH とパラファンクション？
あなたの口の病氣・不快な症状、
原因は噛み癖にあるかもしれません！

あなたの体調不良の原因は
口の緊張癖にあるのかもしれません 木野 孔司
TCH コントロールで 100 歳まで自分の歯を保つ 齋藤 博

生活習慣とお口の健康
～良くない生活習慣からおこること～ 筒井 照子
ディスカッション

座長：上野 道生

協賛：サンスター株式会社

咬合学
咬合採得時の下頤位をこう決める

チンポイント変法について
生理的治療頤位の模索 清水 俊克
アキシオグラフを用いた
理想的な下頤位の採得について 杉山 豊
ゴシックアーチ法 乱れた描記図を読む 齋藤 善広
リーフゲージ法 勝部 義明
ディスカッション
座長：佐藤 勝史

地域医療・高齢者歯科
[2025 年問題]と[2040 年問題]を考慮した歯科医療の在り方
皆さん、ちょっと立ち止まって人生の大先輩と歯科を支える若い歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の話を聞かれて、これからの歯科を考えてはいかがでしょうか？

歯科に生きるとは自らの生業が国民の生活の中にあることを知ること 富野 晃
「貢献寿命」の延伸を 秋山 弘子
超高齢社会における顔の見える医科歯科連携 米須 敦子

忘れられない笑顔に出会うリマウント調整法 奥田 恵司

「歯科技工士、歯科衛生士」の感動 田中 由利子
デジタルがもたらす訪問診療の変化 足田 涼
噛めることから得られる可能性 副島 隆太
訪問診療の医院経済 藤井 元宏
病院で役立つ歯科医療 今井 美恵
自立支援の立場から 竹内 孝仁
ディスカッション

座長：南 清和

日本レーザー歯学会＜共同企画＞
レーザー歯科治療の最前線
—各種レーザー波長特性を理解し臨床に応用しよう—

炭酸ガスレーザーの特徴と臨床 大浦 教一
エルビウム・ヤグレーザーと
ネオジウム・ヤグレーザーの特徴と臨床 永井 茂之
エルビウム・ヤグレーザーと半導体レーザーの
応用による軟組織の治療 津久井 明

ディスカッション

座長：古成 伸夫

DH プログラム
健康な口腔を維持するために…

歯科衛生のための咬合の取り組み
～”育てる咬合・治す咬合・守る咬合”のカテゴリー提案 小林 明子

歯科衛生士による炎症のコントロール
～歯周治療の成功を目指して～ 鍵和田 優佳里
歯科衛生士にできる全身管理
～患者さんを知ろう！～ 阿部田 暁子

ディスカッション

座長：伊藤 公一

歯科臨床最前線
インプラント

欠損補綴分野で活躍するインプラント治療の役割 田中 憲一
経過から考察するインプラント治療 林 美穂
第5世代のインプラント治療
サイナスリフトからショートインプラントへ 林 揚春

日本補綴歯科学会＜共催企画＞
咬合に及ぼす材料の影響

臼歯部材料をどう選択するか 黒岩 昭弘
大臼歯部の歯冠補綴論考
長期予後症例の観察から修復材料を考える 小川 洋一
歯冠材料の摩耗 小泉 寛恭

経営
成功する歯科医院のカギ

デジタルマネジメントシステムの推進
—ミッションとプロセス管理の重要性について— 井上 裕之

歯科医師が行うキャッシュフロー経営の実際
医療と医業の両立 辰本 将哉

咬合を診る目を磨く
欠損補綴 少数歯欠損から咬合再構成まで

咬合再構成を極める！
パラファンクションが及ぼす影響について 上田 秀朗
オーラルリハビリテーション理論にもとづく
壊れない長期安定する咬合治療 南 清和

歯周病
歯周病の成り立ちから全身疾患との関わりまで

歯周病と全身疾患の関わりをどのように捉えるか？ 多田 康一

『歯科衛生士は人類に貢献する価値ある仕事』
口腔から気付き、チェアサイドから発信できること 土屋 和子

歯科臨床最前線
骨增生 & 骨を科学する

骨は生きている
—骨吸収と骨形成のカップリング機構— 宇田川 信之
安全で予知性の高い硬組織増生術 小田 師巳
低侵襲かつ予知性の高い強制的組織増生法び考察 丹野 努
ナノレベル再生材料を用いた in situ Tissue Engineering
—Nano-Drug Delivery Systemの可能性— 山下 素史
低侵襲な物理学刺激を応用した骨再生療法の
基礎と臨床 横瀬 敏志

基礎シリーズ
歯内療法

症例から学ぶ難治性根尖性歯周炎の原因 前田 英史
CT 時代の臨床根管解剖 木ノ本 喜史
歯内療法後の歯を長期保存するために
—下頤位の安定を検証する— 平井 順

歯列矯正
GP が使える矯正テクニック

アライナー矯正治療の可能性と未来 尾島 賢治
知っておきたい全顎矯正治療の基礎知識
日常臨床に矯正治療を活かすために 中島 稔博
一般歯科の先生方が行える矯正歯科治療 保田 好隆
ワイヤーベンディングの 4 つの基本形の臨床応用 松崎 浩成

咬合再構成
顎関節に調和した咬合再構成

歯列の「アーチフォーム」を考慮した咬合再構成
～生体と調和する安全な咬合とは～ 神山 剛史
顎関節症に対する咬合再構成
～咬合と全身との調和～ 山地 正樹
補綴治療の使命と適正頤頭位の大切さ
頤頭位・頤頭形態の診断の大切さ 吉木 邦男

咬合を読み解く
主機能部位咬合理論の臨床応用

主機能部位咬合理論の概要 加藤 均
マイクロスコープを使用して、
上顎大臼歯の治療に取り組んだ症例 春藤 憲男
欠損歯列における主機能部位から見えてくるもの 川上 清志

ディスカッション

座長：登内 敏夫

支部選抜歴代表彰者
あの症例は今

顎口腔系から捉える患者の QOL
～咬合から診たアプローチ～ 橋本 雅人 (35 回大会)
少数歯残存症例の補綴設計 松木 良介 (35 回大会)
咬合再構成における既存インプラントのマネジメント 関 豊成 (36 回大会)

チンポイント変法を利用した
総義歯製作以降に起こる頤位変化の診断法 林 宏暁 (37 回大会)

プログラムは、2022年3月28日現在の内容です。

※詳細は、学術大会HP「会員発表募集」をご確認ください。

スケジュール

会員発表募集	2022年4月20日※～6月10日※
抄録投稿期間	2022年4月20日※～6月30日※
収録データアップロード期日	2022年8月31日※締切

① 登録方法

オンライン登録のみ

② 発表資格および単位付与について

筆頭発表者 1 名、共同発表者 4 名までとする。
発表者、共同発表者ともに本学会の会員であること。
※ただし、歯科技工士・歯科衛生士・歯科助手は、会員ではなくとも発表可。
※準会員、非会員歯科医師、非会員臨床研修医、非会員学生の発表不可。
※オンデマンド発表者は、発表データの提出がない場合、単位の付与は無し。
何らかの理由でオンデマンド発表ができない場合、その理由を事務局まで提出すること。無断の未提出の場合、次大会での発表を不可とする。
なお、代理発表者を立てることは認めるが、代理発表者への単位付与は無し。

《取得単位》
筆頭発表者：30 単位
第2・第3発表者（共同発表者）：10 単位（学術大会参加必須）
※この会員発表は、学術大会における会員発表とします。

③ 発表形式について

- ・オンデマンド口演発表またはポスター発表
- ・他の発表者との連番の発表は不可。
例）A氏XXXXX症例報告vol.1、B氏XXXXX症例報告vol.2、C氏XXXXX症例報告vol.3といったチーム形式はできません。
- ・発表日時の指定はできません。
- ・講演ガイドラインを遵守してください。
※会員発表登録時にガイドラインを表示しています。

《オンデマンド口演発表》
スライドと発表トークの収録をした口演データを提出。
データ作成方法・提出方法等は、ガイド資料を差し上げます。
※口演データの時間：15分以内
※質疑応答はありません。
《オンデマンドポスター発表》
ご発表スライドをPDF化して、ポスターデータを提出。
データ作成方法・提出方法等は、ガイド資料を差し上げます。
※発表トーク・質疑応答は、ありません。

④ 演題について

- ・演題文字数：30 文字以内（制限文字数を超えた場合は投稿できません。）
- ・発表内容が推し量れる文言を用いること。
- ・「第〇報」「vol.〇」など連番表記は不可。

- ・メーカー名、商品名、個人名（「私の」という表記を含む）、施設名、医院名の表記不可。

⑤ 発表のカテゴリ

発表のカテゴリについてカテゴリ——覧から2つ以内を選択する。

- ① 診査・診断・医学判断 ② 調査研究・健診
- ③ 予防歯科/口腔ケア ④ 小児歯科 ⑤ 硬組織 ⑥ 歯周
- ⑦ 咬合・咀嚼 ⑧ 歯内 ⑨ クラウン・ブリッジ
- ⑩ インプラント ⑪ 可撤性義歯 ⑫ 矯正 ⑬ 口腔外科
- ⑭ 包括歯科治療 ⑮ 老年歯科 ⑯ 歯科材料・医療機器
- ⑰ 医療管理 ⑱ 歯科教育・資格・法律

⑥ 発表者名

- ・施設名（医院名含む）や所属を記す。略歴、スタディグループ名をもって所属に代えることは不可。
- ・発表者名は姓名を記載する。
- ・読みをローマ字で記載する。
- ・連名で発表する場合は、筆頭発表者を含め5人までとする。

⑦ 抄録について

- ・抄録文字数：全角300 ～ 400文字以内（規定以上、および以下の場合は投稿できません。）
- ・所属、演題、抄録本文とは関係のない表記が確認された場合、査読委員会もしくは学術大会事務局にて削除する。
- ・文章の末尾は、である調で締めること。
- ・「目的、方法、結果と考察、結論」という論文形式のほか、ヒナ型（HP参照）に則した形式とする。〔結果は当日発表します〕〔乞う、ご期待〕等の抄録は不可とする。
- ・使用材料に関しては、「一般名（製品名：規格：メーカー）」として表記を可能とする。
あくまでも、読者・聴講者が発表者の方法をトレース・追試するためであり査読委員会にて宣伝活動とみなされた場合は修正または不採用とする。
- ・句読点は、「、」「。」を使用すること。
- ・社会的に影響を与える表現や差別的な表現は用いないこと。
- ・日本語以外の抄録投稿については、学術大会事務局では翻訳を請け負いません。
- ・投稿された抄録は、査読委員会により審査を行い、採否決定をする。不適切な表現や上記規定を満たしていない場合は、査読委員会の判断で学術大会事務局側にて修正を行う。
- ・採否通知後は、抄録の内容変更を許可しない。
- ・抄録は、未発表であるものに限る。

⑧ 利益相反について

日本顎咬合学会は、会員の研究等の利益相反（Conflict of Interest: COI）状態を公正に管理するために「研究等の利益相反に関する指針」（以下、利益相反指針）を策定していますので、発表する前には「申告書」の提出、発表当日にはスライドまたはポスターにて、COI状態について必ず公表していただきます。

※利益相反とは、外部との経済的な利益関係により公的研究で必要とされる「公正」かつ「適正」な判断や患者の利益が損なわれる、または損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明される事態のこと。
・学術大会HPよりテンプレートをダウンロードできます。

⑨ 倫理規定・未承認資材について

臨床試験や実験的な医療行為などは、事前に所属研究機関または所属学会倫理委員会の審査を必要とします。また、未承認薬・資材・器材を用いた臨床研究は倫理申請を要します。申請が必要な場合は学術大会事務局までご連絡ください。